

Heroldo de HEL

N-ro 126

Julio 2009

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

[Enhavo/目次]

- ・表紙、Enhavo/目次 P. 1
- ・第73回北海道エスペラント大会 (2009\10\3 ~4)
にJ E I堀理事の講演! P. 2
- ・Hokkajda Fru-soremraKunloĝado 2009 okazis en Sapporo.
2009年北海道初夏エスペラント合宿報告/川合由香
- ・入門講座について (星田 淳) P. 4
- ・Raporto pri la meznivela paroliga kusro de Hokkajda Fru-soremra
Kunloĝado okazigita en Sapporo, (中級クラス講評) /Tsubaki
- ・Ludo "Kiu mi estas? ---" en la Kunloĝado
「私は誰でしょう？」ゲーム--- /川合由香 P. 5
- ・世界を回遊したハガキ/山崎英気 P. 7
- ・Danke ricevitaj -受領郵便物- P. 8
- ・Frukton de la seminario ni transportu diversloken!
セミナリオの収穫をひろげよう! /Tsubaki, Shouichi P. 9
- ・「アイヌの碑」のエスペラント共同翻訳のお誘い/横山裕之 P. 10
- ・Plano traduki "Al junaj fratoj"/「若きウタリに」
エスペラント訳計画/HOSIDA Acusi P. 11
- ・Ni korespondu vigle tutmonde!/文通希望者アドレス紹介
活発に文通しませんか/HOSIDA Acusi P. 12
- ・Sapporo Esperanto societo も立派な固有名詞のひとつです
札幌エスペラント会 後藤 義治 P. 13
- ・人ものがたり (2009年5月31日 北海道新聞苫小牧・日高版) P. 17
- ・[第6回委員会報告] Protokolo de la 5-a Komitato Kunsido P. 18
- ・[第7回委員会報告] Protokolo de la 5-a Komitato Kunsido P. 19
- ・[編集後記/Redaktanto parolas ...]

第73回北海道エスペラント大会 (2009\10\3 ~4) にJ E I堀理事の講演!

今年の北海道大会は10月3~4日、札幌市かでの2・7で開催、と予定しています。この機会に日本エスペラント界のトップタレントであるJ E I理事の堀泰雄さんに来ていただいて

*講演(仮題)「エスペラントでこんなことができる —— 世界を回って見たこと」 と、

*「集めた世界の笛の展示、実演」
を お願いし、次のように承諾をいただきました。

1時間くらい話をしてその後笛吹きということにしましょう。

第1部: 講演: エスペラントで広がった私の世界

第2部: 公演: 笛吹男、世界の笛を吹く

前の晩の宴会で「冷え取り健康法紙芝居上演」

その他、何か役に立つことがあれば何でもします。

プログラム細目はこれから連盟委員会で決めますが、エスペランチストはもちろん、知人、友人その他一般市民に呼びかけて多くの方に来ていただきたいと思えます。よろしく!!!!

Hokkajda Fru-soremra Kunloĝado 2009 okazis en Sapporo.

2009年北海道初夏エスペラント合宿報告

HEL 事務局長 川合由香

La 27an ~28an de junio ni havis kunloĝan studkunvenon en Sapporo. Ni uzis la saman domon de la pasintjara kunloĝado, t.e. La Studa Centro de Hospitalo ŝibata. Partoprenantoj estis dudek. Ili studis en tri klasoj: Elementa, Simpla-paroliga kaj meznivela-paroliga. — La red.

HEL では例年「5月合宿」を連休中に行っているが、今年は6月27日(土)・28日(日)に「初夏合宿」と銘打って集中的な学習と親睦のための合宿を行った。理由は会場の都合。他の行事で5月はふさがっていたのだ。会場は札幌市西野の柴田内科循環器科研修センターである。昨年初めて、持ち主のs-ro柴田のご厚意

で、格安でお貸しいただいたのだが、部屋数もたくさんあり、札幌市中心部からはやや遠いものの交通の便がよく、講習がやりやすいということで非常に好評だったため、今年もお世話になった次第である。

新聞・ビラ等を見ての一般入門者が3名（講師：星田さん）、初級会話コース7名（講師：川合）、中級会話コース6名（講師：s-ro 椿）。あと1名、「お邪魔虫」がいた。川合の息子・小学2年の晴である。総勢20名の参加者を得た。

「中級」のうち1名は、「一般」で来場したものの、独習によってすでに相当なレベルに達していたため「中級」に参加してもらった人である。彼は北大文学部の1年生で、「言語オタク」であると同時に「オタク」でもあると自称。アニメに出てきたエスペラントの歌詞の歌・「Lumis Eterne」が気に入ったのがきっかけで、ネットでエスペラントを独習し、参加できる講習会等はないかと検索して、HELのHPにアップされていたこの合宿の案内を見て、川合に参加申込のメールをくれたのであった。HPがモノを言った初めての例となった。これは横山さんのご活躍の賜物である。ネット時代の新しい新人獲得法といえよう。

3つの部屋に分かれて講習。「入門」と「中級」に関しては星田さん・s-ro椿からご報告が別にあるので「初級」の報告をさせていただく。

「初級」では、国際行事に参加したり、Pasporta Servoを利用したりしたときに必要になる自己紹介や北海道の紹介ができるようになることを1つの大きな目標として、語彙集を載せたプリントを配布し、自分の場合に当てはまるよう各自に作文してもらった。それを皆でripetiして、耳を通して脳に入れる(?)。

「Pasporta Servoで世界旅行を」という目標を持っておられるges-roj 加賀谷からは「こういう場合はなんと言うのか?」と質問も出て、講師を含め皆で考えた。2日目の最後は「中級」と合流して「Ni amas (われら愛す)」と「Certe iam venkos ni (We Shall Overcome)」を歌った。s-ro椿のギターによる伴奏がよかった。

話を元に戻すと、今回特筆すべきは、s-ino 椿が夕食と朝食の調理を引き受けて、20人分の食事（配膳はmemservo）を実に手際よく作ってくださったことである。参加者どうしの話も弾み、合宿の雰囲気盛り上げるのに非常に効果的であった。感謝、感謝である。宿泊はしないが夕食だけいただいて帰るといった参加者もいたほどである。

夕食後の夜の講習は、それを受けなくても（いったん帰宅されても）翌日に差し支えないようにしよう、との主旨で、川合の進行で「Kiu mi estas?」というゲームをした。これについては頁を改めて報告する。

合宿等の行事で大事なものは、初参加者にいかにエスペラントを続けてもらうかである。これについてはお1人が、その後、SESの後藤さんの入門講座に参加されている。エスペラントの世界を自力で楽しめる域に達するまで頑張っていたきたい。(fino)

入門講座について(星田 淳)

「入門」と名がついているが、目的は「エスペラントとは何か、その輪郭を知ってもらう」ことで、本当の「学習」まではあまり入らない。これは昨年と同様。教材として(1)「国際語エスペラントへの招待」(JET)、(2)「橋渡しの言葉エスペラント」(エスペラント伝習所須恵)、(3)「La Semo」(文法解説+4500語の小辞典:セーモの会)を渡し、その内容を解説(+漫談?)し疑問に答え、話し合いました。

Raporto pri la meznivela paroliga kusro de Hokkajda Fru-soremra
Kunloĝado okazigita en Sapporo. (中級クラス講師講評)

Tsubaki, Shouichi

(要約—La Red.) 参加の皆さん とても熱心で、学習時間の半分以上はエスペラント会話でした。講師はそれを聞きながら一息入れられるほど。こんな会話の雰囲気はいつもの例会でも欲しいな、と思います

La kurson partoprenis 7 membroj inkluzive de la gvidanto. Mi kredas, ke Esperanto certe okupis ne malpli ol duonon de la tuta lern-tempo en la kurso. Ĉiu partoprenanto aktive interparolis laŭvice kun sia partnero. Danke al tiaj lernantoj, mi eĉ povus diri, ke mi havis kelke da ripozetoj por mi mem dum la kurso(Pardonon!). MI tamen denove memor-igis al mi, ke gvidantoj ne multe parolu sed paroligu al siaj kursanoj per Esperanto precipe en paroligaj kursoj. Estas unu afero, pri kiu mi devos konsideri. Grave temas pri kiel efike prezenti kaj aranĝi lern-materialojn. Tio restas ĉe mi kiel hejmtako por mia iama sekva gvid-rola.

Rilate al la instrumetodo mi devas multe danki s-inon Aleksandara Watanuki pro ŝia gvidado okaze de la lasta JET-Sendai-seminario ĉi-jara.

Plenuminte iel-tiel mian gvidadon mi nun deziras, ke oni povu havi tiel Esperanto-paroligan etoson, kiel ĉi-fojan ne nur en la kunloĝada

kurso, sed ankaŭ en ordinaraj kunvenoj esperantistaj.

??

Ludo "Kiu mi estas? ---" en la Kunloĝado

「私は誰でしょう？」ゲーム――

川合由香

別頁で報告した「初夏合宿」で「Kiu mi estas? 」というゲームをしました。アンケート形式の質問に参加者全員が答え、進行役が回収・読み上げて、その書き手が誰であるかを当てる、といういたって単純なルールです。今回の質問は以下のものでした。

Bv. respondi al sekvantaj demandojn. Poste gvidanto kolektu la paperojn kaj vocxlegu ilin. Vi divenu, kiu la respondinto estas.

- 1) Kiam vi estis infano, kio vi deziris farigxi en estonteco?
- 2) Kio estas via hobio?
- 3) Kiu(j)n filmo(j)n vi sxatas?
- 4) Kiu(j)n kantisto(j)n vi sxatas?
- 5) Al kiu besto vi similas (mempense) ?
- 6) Kio estas via okupo?
- 7) Kie vi logxas?
- 8) Kie vi naskigxis?
- 9) Kiu vi estas?

1)の答えはさまざまでしたが、宇宙飛行士 (s-ino 柴田、横山さん) や天文学者 (s-ro 椿、川合) といった宇宙関係が人気でした。陸軍大尉 (後藤さん) という勇ましい (?) 答えも。お歳がシバれます。

2)は音楽関係 (鑑賞、演奏、合唱)、映画鑑賞、日曜大工 (feria cxarpentado)、庭いじり、家庭菜園など幅広い回答をいただきました。アイヌ語の学習、いろいろな言語の学習、エスペラントの学習といった語学系を「趣味」と明言される方も。ご夫婦そろって仲良く登山、フォークダンスを挙げられたges-roj 加賀谷、すばらしい。

3)は、皆さん題名をエス訳するのに苦心しておられました。「Apuda Totolo (となりのトトロ : s-ino 柴田)」から「Libertago en Romo (ローマの休日 : s-in

o 加賀谷)」「Stranga amo de doktoro (博士の異常な愛情:阿部さん)」に至るまで、実にさまざまな分野の作品が出てきました。樺山さんと「オタク」の宮川さん、「Nova Genezo Evangelio (新世紀エヴァンゲリオン)」を挙げていました。s-ro 椿はsciencaj fikcioj、浅賀さんは倉本聰の作品、後藤さんはカンフーがお好きだそうです。「Mia valo estis verda (わが谷は緑なりき)」は白濱さんと川合の2名が挙げました。映画鑑賞が趣味の樺山さん、書ききれないほど書いておられたので、川合はうっかり「樺山さん、書くところないんじゃないですか?」と言ってしまい、(それ自体が「Kiu mi estas?」の重大ヒントとなってしまうため)樺山さんから「Malsagxulo!」と怒られてしまいました。すみません(;;)。4)もいろいろ。ギター持参で合宿に参加されたs-ro 椿はビートルズ、さすが!横山さんもビートルズに1票。世代の問題か?その他男性陣では菅原洋一、小比類巻かおる、ビリー・ジョエル、久保田早紀、徳永英明、ジョーン・バエズ、藤井フミヤ、美空ひばりなど、女性陣では井上陽水、中島みゆき、アダモ、さだまさしなどが挙がりました。「オタク」の宮川さん、タカラノアリカ、ミズキナナ(漢字が判りません(;;))、JAM Project と書いておられましたが「???」。

5)がおもしろ回答続出でした。自分をmuso(ネズミ)に例える方、多数。s-ino 柴田は「Muso Minii(ミニーマウス)」と回答。ちょっと可愛すぎ?ネズミのほかではleporo(野ウサギ)、simio(サル)という回答が複数。hundo(イヌ)、vulpo(キツネ)、bovo(ウシ)なども出てきました。変わったところでは樺山さんの「strigo(フクロウ)」、s-ino 椿の「fisxo(魚)」(水泳がご趣味だそうです)。川合の「marleono(トド)」は自虐。

6)は平凡な質問ですが、「mangxo kaj dormo」というお答えも(回答者は伏せませす)。

7)は札幌、登別、美唄、苫小牧、そして名寄(浅賀さん)!遠いところをご参加ありがとうございました。

8)はほとんどの方が道内各市町村を挙げておられました。よそ者(?)は樺山さん(摂津の国)、宮川さん(神戸市)、川合(愛知県豊田市)の3名のみ。

このゲームは大掛かりな準備も要らず、日頃一緒に活動していても知らない仲間の意外な一面がわかって面白いです。皆さんも機会があったら試してみてください。きっと盛り上がりますよ。(fino)

世界を回遊したハガキ

山崎 英氣

(海外からの話題・情報 その13)

1913年に世界を回遊したハガキ("Around-the-circle postcard"とコレクターが名付けている)の興味深いマテリアルが紹介されています。日本切手も貼付されています。

右下写真のハガキは、世界共通語であるエスペラント語の愛好者が各国の同好者に順番に差し立てたハガキで、5か国の人に受け取られ、その国の切手が貼付されて投函が繰り返され、最後は元の発信者の手元に戻っています。アメリカ(発信者)→ロシア→日本→スペイン→フランス→アメリカ(元の発信者)の国々を回遊したことがわかります。貼付切手は、(1)アメリカ・スコット#406、(2)ロシア#58a、(3)日本#99a、(4)スペイン#299、(5)フランス#162の計5種です。日本切手は菊切手の4銭で、高松の消印(和文櫛型印・黒紫色)が2個～到着印(2.3.18)が日本の宛名部分に、差し立て消印(2.3.23)が菊切手上に～押されています。

ハガキの裏面には、"このハガキの受取人は、切手を貼付し、なるべく遠方の外国の文通友人に差し出してほしい。最後の受取人は元の差し立ての人に送るようにして下さい"とエスペラント語で記されているということです。

当時、世界に拡がりつつあったエスペラント語愛好者はかなり外国と文通(もちろんエスペラント語使用で)していたようです。

この種の郵便物はコレクターにとっては面白いマテリアルですが、各国の郵便職員に混乱を生じさせるものだと、1924年にUPU(万国郵便連合)がこのような回送郵便の差し立てを禁止する措置をとっています。



この記事は初夏合宿に参加された山崎英氣さん(札幌)から提供されました。

*La Vulkano; N-ro 160, Printempo 2009; LA ORGANO DE HUKUOKA ESPERANTO-SOCIETO: B5 X 8 頁のうちエスペラント文 2 頁半のうち巻頭記事 1 頁は春恒例の韓国 Namkang Esperanto-Lernejo, 63 人の参加者のうち日本人 14 人、ドイツ人 1 人。もう一つの E 文はブラジル旅行記 (HARADA Cukuru). 台湾旅行 (武藤たつこ)、イタリアの青い空 (91回UK/2006-秋吉任子) と旅行記が多い。

*Mejlŝtono: 2009 majo N-ro 213, 仙台 E 会: B5X10 頁中 E. 文は 1 頁半。第 42 回 E セミナリーオ仙台参加記の内 E 文 1 篇 (椿正一)。11 月の第 50 回東北 E 大会 (米沢) の公開講演会講師はロシア極東大学函館校副校長のセルゲイ・アニケーエフさん。

*La Suno N-ro 90, 山梨エスペラント会、2009 年 5 月、B5 X16 頁のうち E 文は 6 頁。エスペラント一日一言 (池本盛雄) に前田普羅、飯田蛇笏の俳句の E 訳がある。

*受講生通信 第 124 号, 2009-06-01, 沼津エスペラント会, B5X14 頁の内 E. 文 2 頁強。中級受講者のお便りが北海道乙部町の 2 人 (麓千代次さん、白岩恵美子さん) から出ている。

*NOVA VOJO : N-ro 452 junio 2009, EPA (エスペラント普及会)、A5 X34 頁中 E 文 9 頁。昨年末から 5 月まで日本に滞在したポーランドの Roman DOBRZINSKI の滞在記が 6 頁。4 月の韓国での国際 E 合宿の参加記も。日本からは 14 人参加。

*Novajoj Tamtamas: N-ro 239/ junio

2009, JER (Jokohama Esperanto-Rondo) 発行、A4X4 頁、全文 E. 1 頁 ni festu は横浜開港 150 年祭。ザメンホフ誕生と同年の開港だった！ JER (ハマロンド) では内容の違う五つの学習会が毎週、合唱練習が月 2 回、同時進行中。前大戦中の少年時代の生活と教育を描いた Militarisma knabo 連載中。

*La Tamtamo: 第 411 号, 2009 年 6 月号, A4X8 頁, JER, 日本文。エスペラント版機関誌の日本語文もあるが、独自の多い。「九州エスペラント大会参加記」(小鹿倉宏子) は会員 6 名、平均年齢 75 歳の宮崎 E. 会が組織した見事な大会の話。

*センター通信: 第 259 号, 2009 年 6 月 12 日発行, 名古屋エスペラントセンター、A4 X14 頁 (電子受信) のうち E. 文 2 頁は Kiel mi farigis unuciklulo (Ikai Yosikazu). ほかはセンター維持員会報告、トマス・ハラスさん (ハンガリー) 歓迎会、など。

*Eskalo 第 132 号 (2009 年第 3 号)、2009 年 6 月 24 日、川崎 E. 会、B5 X12 頁のうち E 文計 1 頁。スウェーデン人 Henning von Rosen 歓迎、ラオス在住の会員からの KAEM による初の E. 講座の報告、IJK, 仙台セミナリーオ参加記やベナンの ILEI 大会報告など記事は多彩。

*La Movado; 関西エスペラント連盟 (KLEG) 発行、N-ro 701 julio 2009, B5 X16 頁のうち E. 文 3 頁。追悼: 栗栖継さん「闘い続けた生涯」(峰芳隆) は横浜 UK で熱弁をふるった彼の 98 年の一生を語る。

*NOVA VOJO : N-ro 453 julio 2009, EPA (エスペラント普及会)、A5 X34 頁中E文3頁。「来年6月のアジアエス大会に中国から30人の参加を約束」(吾郷孝志)は4ページに渡り中国・内モンゴルのE. 事情が詳しい。

*Novajoj Tamtamas:N-ro 240/ julio 2009, JER発行、A4X4頁、全文E. 卷頭記事: 第58回卷頭E. 大会の来賓、14ヵ国



Frukton de la seminario ni transportu diversloken!

セミナリオの収穫をひろげよう!

語をマスターした Jack Halpern(春遍雀来)の言語学習の秘訣。読書感想文は La Tundra ĝermas, Vivo de Zamenhof について。

*La Tamtamo: 第 412号, 2009年7月号, A4X8頁, JER, 日本文。読書感想文は Novajoj -- の日本語版。広瀬香苗の投稿文は Sekve(Sekvante)の使い方についての考察。

Tsubaki, Shouichi

エスペラントを話す場を求めて参加した仙台セミナリオ、収穫は多かった。中級会話のアレクサンドラ綿貫さんの指導は見事。参加者みな熱心で学習中日本語はほとんど聞こえず。読み、書き、さらに発音を聞くまで、今ではインターネットでできるが、izolita esperantisto は仲間の集まる場に出ないと会話はできない。--- La Red.

Ĉiu-jare mi, kiu loĝas forege de grandaj Esperanto-grupoj, devas konsideri pri tio, kiuj du-tri eventoj esperantistaj estos por mi partoprenindaj.

Verdire pro mon-limigo mi kutime koncedas pri tio, ke mi elektas limigitajn ejojn, kie mi povas nepre paroli en Esperanto.

Ĉi-fjoja seminario certe saĝnis al mi tre interesa, kaj kiel mi anticipis supozis, ĝi ne nur perfidis mian esperon, sed ankaŭ estis eĉ multe pli utila por mi.

Mi partoprenis en la mezgrada paroliga kurso, kiu trafe devigis al mi paroli nur per Esperanto. Nia ĉarma gvidantino, s-ino Aleksandra Watanuki estis jam preparinta diversajn materialojn por paroligi nin, ĉiujn siajn lernantojn, kaj mi kredas, ke la materialoj estis senescepte tre interesaj kaj kontentigaj por ĉiu mia samklasano. Krome ankaŭ la samklasanoj estis tre fervoraj parolantoj de nia lingvo. Mi aŭdis preskaŭ nenian lingvajon japanan dum la kurso. Ĉiuj estis pretaj por helpi unu al la aliaj, ekz., proponante taŭga(j)n vorto(j)n ĉiam nur per Esperanto. Kaj ankaŭ la gvidantino tiel lerte saĝis la lernigajn kaj materialon kaj manieron oportune por ni, ke ŝi neniam enuigis nin. Kvankam tio estis

alivorte iomete peniga laborado eble por iuj, kiuj ne tro multe spertis tian okazon, tamen al ni estis donita la sufiĉe multe da tempo por ke ni pretigu kion ajn farotan. Certe menciinde ja ekzistis ekvilibro inter streĉo kaj malstreĉo, kaj aldone antaŭ ĉio estis ĝoja estos.

Koncerne de la aliaj programeroj, neniam malkontentoj aŭdiĝis. Mi, tamen, iom malkontenta pri mi mem, tial ke en la dua sed ankaŭ ĉi-foja lasta 'Paradizo' mi ne povis teni sufiĉan energion por partopreni pro mia netolerebla dormemo. Mi jam fariĝis 'frua birdo' lastajn jarojn. Malgraŭ tio, mi povis renkontiĝi kun malnovaj geamikoj kaj ankaŭ konatiĝi kun novaj geamikoj. Ambaŭ aferoj restos ĉe mi kiel granda plezur-memoro.

Laŭ mia opinio, legi kaj skribi, aŭ eĉ aŭskulti Esperanton, se interreto disponeblas, oni povas ĉe si, t.e. en sia propra hejmo. Mi do volas (inter)paroli kiel eble plej ofte en Esperanto, ĉiam ajn mi havas okazon tion fari. Despli tial, ke mi estas t.n. izolita esperantisto en la vasta norda insulo.

Malsame kiel ĉe mia loĝloko, ĉe la seminariejo jam pasis la tempo de sakur-florado. Sed mi povis ĝui tie multajn jun-verdajn foliojn de frua majoj.

Kaj danke al la relative belaj tagoj dum la seminario, mi neniam eĉ rimarkis, ke mi forgesintis paki pluv-ombrelon en mian dorsosakon hejme.

Mi kredas, ke ankaŭ aliaj partoprenantoj sentis la seminarion agrabla kaj fruktoporta ĝenerale, kvankam iliaj fruktoj povas esti malsamaj. Espereble ĉi tiujn ni transportu al aliaj diversaj lokoj kaj ni ĉiuj pli profunde verdiĝu kiel la de mi super-diritaj majaj folioj en nia respektiva viv-tereno.



「アイヌの碑」のエスペラント共同翻訳のお誘い

横山裕之

「アイヌの碑」という本があります。これはアイヌ民族の過去と現在の一端を知ってもらおうとアイヌ民族である故郷野茂氏が祖父の人生からはじまって、その半生を記述しているものです。私はこれを読んで深い感銘を受けました。

著者は本の中で、「わたしの裸を人目にさらす思いのこの小さな本で、アイヌ民族が背負わされた苦難の道、そしてこれからも続く悩み多いけわしい道のひとすじでもわかっていただければ、こんなうれしいことはありません。」と最後に述べています。また、「創作でないだけに悲しかったところに来ると悲しみが新たになり、なかなか前へ進めませんでした。」とも言っています。

私はこの本のエスペラント共同翻訳を計画しています。読んだ方がいらっしや

るかもしれませんが、私も是非参加したいという方がいらっしゃれば、お声をかけていただければうれしく思います。何ページでも構いません。特にページ数を特定したい方はその旨お伝えください。

連絡先の電話番号は、011-894-5517、
電子メールは、hokkaido_esp_ligo@yhaoo.co.jp、
横山裕之（よこやまひろゆき）です。よろしく願います。

期限は今のところは考えていませんが、皆さんとの作業状況を勘案しながら柔軟に考えていこうと思っています。よろしく願います。

できあがったものは、エスの本を出している諸出版機関にお願いして出版にもってきたいのですが、それがかなわなくとも、少なくとも北海道エスペラント連盟のホームページには載せ、世界中の誰でもが無料で見る事ができるようにしたいと考えています。

Plano traduki "Al junaj fratoj"

「若きウタリに」エスペラント訳計画

HOSIDA Acusi

以前HEL有志が訳した「アイヌ神謡集」は知里幸恵が先祖の言葉による伝承を書き留めたもので、民族固有の自然観、宗教観念がよく現れています。

「若きウタリに」の作者バチェラー八重子（1884～1962）は有珠郡有珠（現在伊達市有珠）のアイヌコタンに生まれ英国人バチェラー司祭の養女になりキリスト教によって同族を救おうと努力しました。

2003年のザメンホフ誕生日の翌日 岩波現代文庫から刊行された「若きウタリに」（バチェラー八重子）は東京堂から1931年に出た同じ名の歌集の復刻再編集で 値段は 900円（+5%）です。

この歌集は神謡とは全く違って、昭和初年、今と違って「先住民族の権利」という言葉もなかった時代に同胞の現状、未来への憂い、悲しみ、怒り、故郷への想いなどを短歌の形で述べたものです。

当時治安維持法に問われて獄中にあった中野重治はこの歌集を「滅ぼされつつある民族の抵抗の歌、パルチザンの歌」と表現しました。抵抗の歌ばかりではないが、合奏ならば通奏低音として奥に秘められている感じはあります。

現在この歌集の試訳を進めているのは 星田一人ですが、有志の参加をお待ちしています。現在まで手をつけたものはHELの電子掲示板「エスペラントよろず相談室」や、それからリンクする

「若きウタリへ エスペラント訳 臨時掲示板」に出していますので参照の上、連絡をください。

Ni korespondu vigle tutmonde!

文通希望者アドレス紹介 活発に文通しませんか

HOSIDA Acusi

エスペラントの実力も使わないでいるとさびつきます。会話は相手がいないとできないが、読み書きは文通で出来る。毎月ネットに出る文通希望者の anoncoj から少し紹介します。

*Afrikaj junuloj, 14 jaraj (15 jun 09):Aguidahoue, Benino.

Aguidahoue estas unu el vilaĝoj en Benino kie dudeko da lernantoj 12 ĝis 14 jaraj libervole lernas la lingvon fare de la neregistara organizo "Afrika Centro Mondcivitana".

Por plibonigi la lingvoscion, iuj interesiĝis korespondi kun esperantistoj el diversaj landoj en la mondo.

Ĉi tio permesos al ili alproksimiĝi aliajn kulturojn per korespondado. Bonvolu korespondi paper-poŝte kun iuj el ili por helpi ilin perfektigi en la lingvo ĉar ili estas la estontaj instruistoj esperante.

Mathieu AMOUSSOU, 14 jara.

Pierre ADONNINGBO, 14 jara.

Idelphonse FIDEGNON ZOTA, 14 jara.

Andre AVINOU, 14 jara.

Pascal HOUNSOUNOU, 14 jara.

Romain CODJO HOUNSOUNOU, 12 jara.

La sama adreso validas por ĉiu el ili:BP 226 Lokossa-Mono, Benino

12~14歳の、将来は教師になるベナン（アフリカ）の子供たち。むづかしいことを書く必要はありませんね。絵はがきにちょっと説明をつけただけでも、エスペラントは使えるんだ、と実感してもらえます。宛名は最後の行にあります。

* Renan Nascimento (15 jun 09): Rua Barao de Lucena, 126,

Santa Cruz, Rio de Janeiro, Brazilo 23510-260

Ret-adreso: grope15@yahoo.com.br

Mi estas 19 jara viro, studanto, komencanto. Mi apartenas al Grupo de Esperanto Pac-horo. Mi preferas korespondi per paper-poŝto.

リオデジャネイロ（ブラジル）の19歳の学生、初心者。メールでもできるが、手紙での文通が好みようです。

Sapporo Esperanto societo

も立派な固有名詞のひとつです

札幌エスペラント会 後藤義治

SESの樺山さんがHEROLDOに札幌エスペラント会のエスペラント表記について小論文(前125号)を發表されました。私は少し違う意見を持っているので考えを述べてみます。

札幌エスペラント会のエスペラント名が、いつ、誰が命名したかは知らない。1921年に日本エスペラント学会の宣伝隊が来道し函館、小樽、札幌、旭川、室蘭をまわった。と言う記録はあるがSESの存在は明確ではない。1936年第二次宣伝隊が函館、小樽、札幌、旭川、釧路、帯広、室蘭、苫小牧をまわり、札幌で日本大会を開いたと日本エスペラント運動史に記載されている。1934年には地方会が140にもおよび札幌の名もあるから、この年以前に設立されたのだろう。推定するに1934年には Sapporo Esperanto Societo は存在し、少なくとも75年以上の歴史を持っている。

樺山さんは、文法に執心するあまり「伝統がどうこうでなく」と一言で片付けているがこの時代エスペラントを支持し、エスペランチストであるのは命がけの事だったのです。常にスパイ容疑で付回されていました。活動家だった大杉栄は憲兵隊に連行され殺害されている。今話題になっている「蟹工船」の著者小林多喜二も獄中で官憲の拷問によって虐殺された。私の身近でも出征兵士の妻は自慢の娘が女学校に合格した時、何かと噂のあった靴屋に靴を注文したことで、地元の警察に出頭を命ぜられ油を絞られたのを思い出します。こんなことにまで介入していたのです。エスペランチストの先達相沢さんの同僚で身体が弱く兵役は免除された、が同輩は皆出征して仕事量は増えるばかり、ついに会社の仕事を家へ持ち帰って方つけなければならなかった。がある日突然特高に踏み込まれ、会社の用箋と鉛筆があったのを理由に窃盗罪で検挙されたそうです。今のようにホビイ感覚でエスペラントをやっているのとはわけが違います。命がけで守り75年もの歴史をもう少し大事にしてください。私にエスペラントを指導して下さったのはそういった人たちなのです。具体的に名を上げるなら相沢治雄さん、アリマ・ヨシハルさん、高橋要一さんなどです。一言で片つけるような軽い話ではないのです。

樺山さんは冒頭で 1) Sapporo Esperanto Asocio がエスペラントで最も大切な「16条の基本文法」の項目に違反している。 2) ここまであからさまに間違った命名の仕方は例が少ない。と書いています。特に1)の問題解釈はエスペラントの根幹に関わる事だか

ら重要だ。確かに16条文法はおろそかにしてはならない。だが文法とは一つの言語を構成する語・句・文などの形態・機能・解釈それらに加えられる操作についての規則であると広辞苑にあります。平たく言えば「文章」に適用されるものです。藤巻謙一さんの「まるとごエスペラント文法」を見てください。固有名詞は地名、国名、都市名、人名、団体名を表す「単語」と規定しています。UEA発行のPlena Analiza GramatikoではLa propraj nomoj estigas du gravajn demandojn: unue pri ilia loko en la lingvo, due pri ilia aparta gramatika karaktero.と書いてあります。藤巻さんは明確に単語と言い切っており説明の必要はないが、UEAの見解については少し具体例を上げてみましょう。破綻した地方都市夕張は戦中戦後、石炭の町として活気に満ちていました。「北炭」の城下町だったからです。北炭は固有名詞であって、正しくは「北海道 炭鉱汽船株式会社 夕張営業所」と言う。でもある国では「北海道の夕張市にある採炭と汽船に関わる株式会社の営業所」と書くかも知れません、固有名詞はおおむねその国の習慣によって、表記されるのです。いずれかの国に所属していればその国の方言で記されるのは自然の成り行きです。Sapporo Esperanto Socieito はまさに日本方言の単語に属しているのです。名が決まったのは昔の事、方言以外の知識が乏しかったのではないか、との疑問もあろうから当時のエピソードを一つ紹介しよう。1941年エスペラント誌上で和文エス訳のラリーが一年間に渡って行われました。北海道から参加した人は58人にもおよび、見事金賞に輝いたのは札幌で電機工事業を営む坂下清一さんでした。当時は今に比べてレベルが低かったなどという懸念は全くないほど充実していたのです。あなたの名も万葉の歌人のように(カバノ ヤマノ ユースケ)と言わなくてもいいし、西洋流にYusuke Kabayamaと言う必要もない。日本方言であなたが書いているようにKABAYAMA Yusukeと書けばいいのです。

第二の問題です。あなたが指摘するように実例が少ないと言う点では数えたことはないがその通りだと思う。でも私が傍点ふったように「ここまであからさまに」は「このように明らかに」のつもりで書かれたと思うが「ここまで」は割引するにしても「あからさまに」は(たちまち、急に、一時的、包み隠さないで)と言う意味だから誤用ですよ、言語の間違いを指摘するなら正しい日本語でお願いしたい。

次いで「理詰めで解説する」と前置きして三つの問題を提起していますね、いずれも単なる類推であって、理詰めの条件を満たすものとは思えない。1) SESの問題を別団体の会誌に書くのは筋

違いでないか？ 誰がそう言ったのか知らないが、エスペラントの根幹に関わると主張しているのだから渦中にならずに人目に留まる方が冷静な判断ができるし、適切な表現ではないが「岡目八目」の効果は期待できる。第二に多数で決まったことを蒸し返すのは、とあるが不合理であれば何年かけて再論してもいいのではないですか。第三にたかが名前の事をそこまでこだわるか、についても「名は体を現す」との諺があるように、拘泥しては駄目だが会の名に特別の思い入れがあって何の不都合があろうか。ただし理詰め条件としてあげるならば推測でなく論理的でなければならない。

一方、「全員に向けて理路整然と意見を言う機会がない」という、あなたはSESの会員に対する独擅場を夢見ているのですか。もう少し日常活動に身を入れてほしい、毎週土曜会もあるし、ピンペロイの会もある。手紙もあればEメールもある。SESの会員は26人しかいないのだし、毎週一人ずつ尋ねて行っても、半年でみんなと意見交換ができますよ。私たちのように立ち居振る舞いが不自由な年寄りに任せて置くのではなく、あなた自身がSESの中心になって活動したならば、あなたの望みなんてすぐ叶うでしょう。あなたはその実力も才能も十分に兼ね備えているのだから。

また他のネーミングについても比較し言及していますね。「エスペラントの団体」は他と違う「会話、文通の言葉」と団体名違う「伝統」がどうのこうのではない。と即座に否定していますがどこが違うのか全く説明されていない。都合の悪い事もきちんと説明するのが理詰めというものです。野球の選手だって、音楽家だって、芝居の役者だってあなたがエスペラントに注いでいる情熱よりもはるかに超える努力をして、それに人生を捧げている人は沢山いますよ、エスペラントを高く評価するのはよいが、他を軽んじてはいけないのではないですか。

ただし、文法論は立派です。あなたの言うとおりに、SESの皆さんはあなたのように理解できていないかもしれません。であってもSapporo Esperanto Societoを文章と見なすなら間違いであることぐらいは知っていますよ。文法というものは物理や化学の「定理」ではないし、新しい「単語」をつくる法則でもない。あくまでも「文章を作る上での決まり」を言うのです。関西出身の人はしばしば補語を省いて話をしますが別に聞きづらい訳でもなく、本人の恥でもない。出自が明らかな事は親しみさえわくではありませんか。

また、歴史の断片を取り上げて言語との相関関係に全く触れずに英語は「ピジン語」だと断定していますが、とんでもない間違いではないでしょうか。英語は完成された言語であるし、BBCから放

送される言語は世界の公共放送の代表的模範である事は誰もが認めるところです。ピジン語とは全く違うものです。ザメンホフ博士だって「文法をノート半冊分くらいにまとめたいて考えていた時英語にであって閉眼した」と言っているではありませんか。この論理が正しいならエスペラントもまさしくピジン語になってしまいます。

あなたは終段で「“Japanio danco kanto vesto placas al mi”等と言うヒドイ文もありうる事になってしまう」と言っていますが、どんな言語でもその言語の文法に反しない「ヒドイ」文は作ることができるのですよ。大半の常識ある人はそういう文を書いたり言ったりしないように努力しているのです。上記の文はあなたが書かない限り、書く人はいないでしょう。とにかく、文章と固有名詞は別物です。混同してはならない。固有名詞はそれぞれが固有の呼ばれ方をするのです。皆さんおなじみの、アメリカ長老派教会の宣教師ヘボン、同じアメリカの女優はヘプバーン、まるで違うが綴りは両方とも同じHepburnだ。先日ある人が「会の名は変えようと変えまいとどちらでもいいが、Sapporaだけはやめていただきたい、僕はサッポラ市民でないからね」と話していた。このSapporoもヘボンさんに義理立てしてSapporoにするか、J E Iの方針に従ってSaporoにするか難しい所だSapora Esperanta Societoなんてしたら、また誰かに「味なエスペラント会かい？」なんて冷やかされそうな気もする。他の人のことは知らないが、私は今までSapporo Esperanto Asocioと名乗って恥ずかしい思いをしたこともないし、「何の会だい！」なんて聞き返されたこともない。札幌エスペラント会の先輩、前田さんという人がこの会を讃えてKanto de Sapporo Esperanto Societoという詩を書いている。勿論、固有名詞と韻文はきちんと書き分けているし、この詩に矢島さんが曲をつけて歌にしています。声高らかに歌ってみたらどうですか。心も晴れるかも知れませんよ。

私はこう考えています。文章であれ、言葉であれ、固有名詞であれ正しいに越した事はないが、情報が間違いなく伝わればいいのであって、拘る必要はないでしょう。ザメンホフも「エスペラントの基礎」への序文で「“エスペラントの基礎”はエスペラントの最良の教科書や辞書だと考えてはならない。とんでもない事だ」と、また自らが書いた多くの著作について、エスペランチストが運動の統一のために役に立つと思うなら、模範としてもいいが義務とみなしてはならない」と書いている。

樺山さん！私はSapporo Esperanto Asocioについて疑問は呈したがそれよりもあなたのような才人が一日も早く札幌エスペラント会の指導者になって新しい息吹に満ちた会になることを望んでいます。



誰もが簡単に学べる
国際共通語の理想で誕生した人工言語エスペラントに接して六十年余りが過ぎた。使用者は世界で百万人。二億人の英語の百分の一に満たないが、特定の国や地域の言葉でないからこそ、平等な精神が輝きを放つ。「心の国境を消す。それがエスペラント」。笑顔のままなごしに力がこもる。

エスペラントに出会い60年余 星田 淳さん(78)



国、民族の壁超え交流

韓国外相だったが、当時の軍事政権に反対して北朝鮮に亡命した人物だ。ふと、長年の希望を思い出した。「北朝鮮のエスペラントユーザー」と連絡が取れないだろうか

エスペラントは一八八七年(明治二十年)、ポーランドのザメンホフ博士が発表した人工言語。この言葉を使っ

て国際文通、近年は電子メールで、国、思想、宗教が違ふ人々がさまざまな思いを交わし合

った。デンマーク、チェコスロバキア、フランス。文通相手が「鉄のカーテン」の両側に広がるにつれ、関心は切手から民族や平和問題へ移った。

戦争放棄と戦力不保持を定めた日本国憲法(佐藤元治)

子を伝えるメールが届いた。メディアが伝える「西側に都合がいい」情報とは違う迫力を感じた。
旧制五高(熊本)在学中の一九四七年、エスペラントを学び始めた。切手収集が趣味で「国際文通できれいな外国切手を集めたい」と、古書店で見つけた独習書で勉強。先輩を頼り、相手を探した。東欧と西欧を分断する冷戦が始まっていく。砂漠化した襟裳岬の森を、地道な植樹で復活させた漁業者の姿に、世界の仲間が共感した。
代表を務める苫小牧エスペラント会はこのほど週一回の入門講習会を始めた。今年にはザメンホフ博士の生誕百五十年、「国際共通語の魅力をあらためて伝えたい」

ほした・あつし 1931年、札幌生まれ。幼少期を中国大陸で過ごす。旧制八代中、旧制五高、九州大を経て53年、王子製紙に入社し苫小牧へ。88年から道エスペラント連盟委員長。日本エスペラント学会評議員。

[第6回委員会報告] Protokolo de la 6-a Komitato Kunsido

日時：2009年 5月23日（土）13:00 ～

場所：札幌市北区北8条西3丁目 札幌エルプラザ2階 打合せコーナー

出席：阿部、川合、後藤、佐藤不二雄、Ges-roj 椿、横山、星田（記録）

欠席：佐藤英治、中田、大山口

議事

*組織：部長欠席：出席者による討議。

札幌で新人2人（Ges-roj 加賀谷）の加入があった。昨年の諸行事に出て来た新人14人には行事連絡を送っている。

*広報（HP）：ホームページへのアクセス、1998年11月以来 62338件、一ヵ月に千～二千件。SES、TESの活動状況や初夏合宿の予定などを出している。

*メールマガジン：4月25日126号を出した。発行数998部。外部からの依頼で出している記事もかなりあるが、北海道のものを多くしたい。担当（横山）へ送って下さい。月の最終金曜日に発行、その前の月曜日を原稿締切りとします。

*情報・宣伝：前回討議したポスター（小学生新聞）、在庫を調査する（星田）初夏合宿の計画、新聞3紙に通知した（川合）。

*教育・研究：苫小牧の例会は従来通り。新人募集を新聞に出したが参加なし。札幌の入門講座、2名（Ges-roj 加賀谷）終了、Zagreba Metodo。土曜例会で Viktimoj、日曜日の Vinberoj は Kumeŭaŭa を読んでいる。

EPA（エスペラント普及会）は毎月発行の広報（500部）にエスペラント会話例を出して配っている。

*図書：担当者（佐藤英治）欠席、出席者で討議。カタログ整備は終わったはずだがどうなっている？ 中田さんが以前扱っていたアルバム類は？

*機関誌：5月23日 Heroldo de HEL No.125 印刷発行、100部。

*年間計画

・北海道初夏合宿（Frusomera Kunloĝado en Hokkajdo）

機関誌に載せ、ホームページにも出す。

・北海道大会：10月3-4日と予定、かでの2・7に申し込んだ。3日午後総会、（Bankedo?）4日一般向け講演会の講師にJ E Iの堀理事はどうか（本人承諾済）

・日露関係

隣の島サハリンとの交流を考えたい。エスペランチストを探す（星田）

*次回委員会

6月28日(日)13時から 柴田内科循環器科研修センターで初夏合宿終了後
[第7回委員会報告] Protokolo de la 6-a Komitato Kunsido

日時:2009年6月28日(日)13:00 ~

場所:柴田内科循環器科研修センター(初夏合宿終了後)

出席:阿部、川合、後藤、Ges-roj 椿、横山、星田(記録)

欠席:佐藤不二雄、佐藤英治、中田、大山口

議事

*広報(HP):有志がエスペラント訳を進めている「若きウタリに」の掲示板を作った。初夏合宿の中級会話に参加した宮川さんはこのHP(Hejmapaĝo)の合宿案内を見て参加したとのこと。

*メールマガジン:次号に合宿関係の報告を入れる。

*情報・宣伝:初夏合宿の計画、道新、毎日、朝日の3紙に通知した(川合)。

苦小牧の入門講習記事は苦小牧民報に出たが参加者現れず。

エルプラザ市民活動サポートセンターで出している「しみさぼかわら版」に大会、講習などの予定を出せる。

前回討議したポスター(小学生新聞)、発行元に残っていた5部を取り寄せた。1部をここ(柴田内科研修センター)に寄贈し、残り4部の活用を考えよう。

*教育・研究:苦小牧の例会は従来通り。新人募集を新聞に出したが参加なし。

この合宿(入門コース)に参加した榊さんの意欲に答え SESの入門講習を来月の第1月曜からエルプラザで開く。

昨年の合宿に参加した小樽の平山さん(instruisto)から連絡:小樽の小学校で(総合学習?)エスペラントについて話してもらおう機会ができそう、とのこと。

*機関誌:(意見)1ページの上に連盟・事務局などのアドレスなどがかなりのスペースを占めているが、ここに出す必要はない。最後のページに廻すべきだ。

事務局のFAXは今故障で使えない、除いてほしい(川合)

*年間計画:9月12日エルプラザで「サークル活動発表展」があり体験講演会、展示などが行える。締切りは過ぎていたが、申し込み、受け付けられた。

*次回委員会:7月18日(土)13時から、エルプラザ2階18人用会議コーナーにて。また、印刷室は10時から使用可能(Heroldo de HEL印刷)です。

[編集後記/Redaktanto parolas ...]

*固有名詞とエスペラント文法

エスペラント化されない、原語のままの引用も時にあり、こんなのはエスペラント文法には関係ないが、エスペラント化されたら、事情は変わります。

*La 2009-a Kunloĝado de HEL ?????

A:Mirinde! Ĉu vere okazis kunloĝadoj tiom multaj ??

B:Strange! HEL havas historion de nur sepdek-kelkaj jaroj, ĉu ne?

C:Ha, mi komprenas. Legu ĝin kiel "La 2009-ajara Kunloĝado"!

B:Tiaokaze ŝanĝu la esprimon tiel:"La Kunloĝado de HEL en 2009".

北海道エスペラント連盟 会費/年

正会員 3000円、購読会員 2000円、家族会員 1000円

会費振込みについてのお願い

会費振込みを郵便局窓口から郵便局ATM機で振込みを変更していただくと、振込手数料が120円が80円になります。会費支払いを、会員が行事参加の時、または役員に直接預けていただくと手数料が0円になります。振込手数料は会計支出になりますので御協力お願いいたします。

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

*Redakcio

ĉe HOŜIDA Acuŝi

Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI

053-0844 JAPANIO

TEL-FAKS:0144-74-2539

Retadreso:hosidaacusi@kir.biglobe.ne.jp

*Postĝirkonto (郵便振替) : 02700-6-17075

*Sekretario: KAWAI Yuka

N-ro 45, Simin-Katudo-Sapoto-Senta

Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3

Kita-ku, Sapporo, 060-0808 Japanio

TEL : 0126-62-4636

Retadreso : nordano@sea.plala.or.jp

*TTT-ejo : <http://www5d.biglobe.ne.jp/~hel/jp/index-j.htm>

北海道エスペラント連盟

*機関誌編集

〒053-0844 苫小牧市

宮の森町2丁目18-18

星田 淳 方

*事務局 : 川合由香

〒060-0808 札幌市北区

北8条西3丁目札幌エルプラザ

市民活動サポートセンター レターケースNo. 45